

金沢学院大学・金沢学院短期大学

二〇二三年(令和五)年度 入学者選抜試験問題

一般選抜Ⅰ期(二日目)

二〇二三年二月五日(日)実施

国語

Ⅰ 注意事項

解答用紙に「国語」と記入・マークしてから解答してください。

問題は1ページから18ページまであります。

第3問、第4問は受験する学科・専攻によって解答する設問が異なりますので、注意してください。

問題は持ち帰ってもよいですが、コピーして配布・使用するのには法律で禁じられています。

Ⅱ 解答上の注意

解答用紙は、マーク式解答用紙と記述式解答用紙の2種類があります。

マーク式の問題で、「解答はマーク式解答用紙 10」と表示のある問いに対して④と解答する場合は、下記の

例のようにマークしてください。記述式の問題には「解答は記述式解答用紙」と表示がありますので、記述式の

解答用紙に記入してください。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

問題は次のページからです。

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1～7)に答えよ。

一部の若者のなかにナレーターになりたいという人が少なくないようですが、ナレーションを現実に行っている人たちはほとんどは俳優、声優、アナウンサーであって、ナレーターが本職という人はいないのかもしれない。 (a)、ナレーション一本で生活しうるほどには、ナレーターは職業として社会から認められてはいません。

テレビ界は、スタジオのキャスターを中心にリポーターなどが画面に顔を出しつつ、生放送で情報を伝えていくスタイル、フロー系の番組が花盛りです。速報性というメディアの特性から (a) 当然の現象だといえるでしょう。人が人に情報を伝えるコミュニケーションの形としてごく自然でもあります。

一方、いったん作品として制作、録画したものを放送する映像構成番組も少なくありません。また長時間ワイドのスタジオバラエティー番組では、映像で構成されたリポートが何本かあらかじめ制作され用意されています。こちらは映像メディアという強みを生かした番組といえます。

ここではナレーションが不可欠で、ナレーターが、映像と共同して、画面に顔を出さずに声だけで (1) カツヤクするのは、ゲームソフトにもナレーションが必要になっています。

こうした現状から、数多くの映像構成番組のナレーションを担当してきた (2) わたしは、放送文化におけるナレーションの役割がもっと注目され、論じられるべきだと思っています。活字に登場する番組批評を見ても「何が伝えられたか」という情報内容だけが問題にされ、映像、ナレーションなどの (3) コウケンが (3) ゲンキユウされることはきわめて少ないのです。情報内容しか観ていないといってもいいくらいです。活字文化の目では映像文化をとらえない場合、「何が」はともかく「いかに」伝えているかへの関心は (4) といえるのではないのでしょうか。

情報というのは要約が可能なものです。提案文には「何を」伝えたいか要約して書かれています。番組の優劣が提案文だけで論じられるということがありうるでしょうか。情報の伝達ということだけでいえば、つまり要約されてしまえば、 (4) バイタイ (メディア) の違いは意味をもたなくなります。「いかに」伝えたかは、忘れられてしまうのです。ましてナレーションのコウケンなど無になってしまいます。

(b)、物語といえば要約は無意味で、「何を」語るかと同時に「いかに」語るか、つまり語り口が問題となるはずですが。そこにナレーションが不可欠なものとして存在するのは、ナレーションは番組を生かすし、殺しめるのです。放送文化におけるその役割がもっと注目され、論じられるべきだと思います。俳優の演技に「劇評」があるように、ナレーションにも批評があつていいのです。

ことはナレーションにとどまりません。映像構成番組を文化としてより豊かなものにしていくためには、何を語るかと同時にいかに語るかが、もっと広

く問われてしかるべきです。そのためにも、ナレーションとは何か、ナレーターはナレーションをするとき何を考えているのか、について、多くの人たちに
もつと知ってもらいたいと願っているのです。

ナレーションとは何をする行為なのでしようか。ごく簡明、素朴にナレーションについていえばこうなるでしょう。番組は情報の伝達です。発信者から受
信者に情報が伝達されます。(c)、情報の伝達はテレビである以上、「映像」と「コメントが音声化されたナレーションの声」の二つでなされます。受
信者はこの二つを頭のなかで総合して情報を受信することになります。(ウ)この能力自体すごいことで、未開時代の人類にはなかった能力だと思います。

テレビジョンは映像と人間の音声によることばを同時に受信し、それを総合しうる能力がなければ楽しむことができません。人間が顔を出して(映像と
して)「しゃべる」のは、通常のコミュニケーションと変わりません。空想の話ですが、未開の古代人を現代に連れてきたとして、最初は映像のなかの人間
がしゃべることに不思議を感じるでしょうが、すぐ慣れるだろうと思います。現実の「疑似」だということにです。写真というものを見ても、映った人物が
現実の誰その「疑似」だということに、じきに慣れるだろうと思います。

しかし、ナレーションはどうでしょう。誰とも、どんな人物かも、どこにいるのかもわからない奴が「しゃべる」という状況に最後まで慣れることはな
いのではないか。映像を見ながら、其奴が「しゃべる」ことを聞いて、その状況を理解することができるだろうか。「ほら、あそこに獲物がいる」と、現実
に行動をともしている男が告げるのなら、何の不思議もないのですが。誰ともしれない奴が見えないところから「しゃべる」とは、これは何なのだとは
思わないでしようか。このことに現代人が不思議さを感じないのは、^⑤トツピなことをいうようですが、小説を読んでいるからだと思えます。小説も、誰と
もしれない奴が見えないところから「しゃべる」のです。小説以前の語りもの世界では、聴衆の前に語り手が現前していました。見えない「語り手」を
理解できるという意味において、小説なくして映像構成番組は出現しなかつたとわたしは思っています。どうやら、ナレーションというのは、ことばを音声
にして伝達するには違いないのですが、通常のコミュニケーションとは違う特殊なタイプであるようです。

(長谷川勝彦『メディアの日本語』による。一部改変。)

問1 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に改めよ。解答は記述式解答用紙。

- ① カツヤク
- ② コウケン
- ③ ゲンキュウ
- ④ バイタイ
- ⑤ トツピ

問2 空欄（a）～（c）に入れるのに最も適当な語を次の①～⑤のうちから一つずつ選べ。

解答はマーク式解答用紙、 a 〓 1、 b 〓 2、 c 〓 3。

- ① さて
- ② そこで
- ③ したがって
- ④ しかし
- ⑤ つまり

問3 傍線部（ア）「当然の現象だといえるでしょう」とあるが、なぜ「当然の現象」といえるのか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答はマーク式解答用紙 4。

- ① 速報性がない映像構成番組には映像メディアの強みがないから。
- ② キャスターやリポーターが、画面に顔を出して情報を流すから。
- ③ テレビ界では、フロー系のバラエティ番組が流行っているから。
- ④ フロー系の番組では、ナレーターが起用されることがないから。
- ⑤ テレビの生放送は、すぐに最新の情報を流すことができるから。

問4 傍線部（イ）「わたしは、放送文化におけるナレーションの役割がもつと注目され、論じられるべきだと思っています」について、筆者がこう思う理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答はマーク式解答用紙 5。

- ① 番組が優れているか否かは、要約した提案文だけで見定められることが多いから。
- ② 番組では「何を」ではなく「いかに」伝えたかという点だけが問題にされるから。
- ③ ナレーションは、その語り口によって番組を生かすことも殺すこともできるから。
- ④ 俳優の演技には「劇評」があるのに、ナレーションは批評されることがないから。
- ⑤ ナレーターが何を考えているのか、番組の視聴者に知ってもらいたいと思うから。

問5 空欄 に入れるのに最も適当な語を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答はマーク式解答用紙 6。

- ① 詰めが甘い
- ② 軽はずみ
- ③ 無節操
- ④ お寒い限り
- ⑤ 体をなさない

問6 傍線部(ウ)「この能力自体すごいことだ」とあるが、何が「すごい」のか。次の①～⑤のうちから最も適当なものを一つ選べ。

解答はマーク式解答用紙 7。

- ① ナレーションと映像の人物の音声を、頭のなかで総合するところ。
- ② 映像と音声化されたナレーションを、頭のなかで総合するところ。
- ③ 映像の人物のナレーションと写真を、頭のなかで総合するところ。
- ④ テレビの映像と写真の人物の音声を、頭のなかで総合するところ。
- ⑤ 写真の人物を現実の「疑似」として、頭のなかで総合するところ。

問7 二重傍線部「どうやら、ナレーションというのは、ことばを音声にして伝達するには違くないのですが、通常のコミュニケーションとは違う特殊なタイプであるようです。」とあるが、ナレーションのどの点が「特殊」なのか。本文中の語を用いて、 A B は20字以内、 A B は30字以内で説明せよ。解答は 記述式解答用紙。

通常のコミュニケーションが A のに対し、

ナレーションは B の点が特殊である。

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。

著作権の二次利用権許諾を得ていないため、表示しておりません。

著作権の二次利用権許諾を得ていないため、表示しておりません。

著作権の二次利用権許諾を得ていないため、表示しておりません。

著作権の二次利用権許諾を得ていないため、表示しておりません。

著作権の二次利用権許諾を得ていないため、表示しておりません。

第3問、第4問は受験する学科・専攻によって解答する設問が異なりますので、注意してください。

【大学】 文学科（英米文学専攻・心理学専攻）

教育学科

経済学科

経営学科

経済情報学科

芸術学科

スポーツ科学科

栄養学科

【短大】 現代教養学科

食物栄養学科

幼児教育学科

上記学科・専攻の受験者は、第3問を解答しなさい。

（11 ページ～15 ページ）

【大学】 文学科（日本文学専攻・歴史学専攻）の受験者は、第4問【古文】を解答しなさい。

（16 ページ～18 ページ）

第3問 次の【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を読んで、後の問い(問1)に答えよ。

【文章Ⅰ】

生物多様性の保全。これは、じつに困難な課題です。なぜなら、西洋近代が作り上げてきた今の世界の矛盾が、ここに象徴的に出ている問題だからです。

矛盾の第一として、南北問題があげられるでしょう。生物多様性を守るといって、一番多様性の高いのは熱帯雨林とサンゴ礁で、どちらも熱帯、つまり南の貧しい国です。自然を開発して、なんとか経済的に豊かになろうという南の国の希望を、生物多様性が減少するからダメだと、頭から押さえ込むわけにはいきません。南の国の人たちには生活がかかっています。それに対して、北の国の人たちは、そもそも都会暮らしで、生物多様性の減少など、それほど身につまされる話ではなく、開発をあきらめてもらう代償として南の国にお金を支払ってまでも、地球の生物多様性を守ろうという気持ちには、なかなかありません。

南北問題のもう一つの側面が、生物多様性条約で問題にされています。この条約の目的として、遺伝資源の利用から生じる利益を公正に配分するという項目があります。新しい薬が、めずらしい生物から作られたとしましょう。作るのは北の国、珍しい生物が棲すんでいるのは南の国と、相場が決まっています。その新薬からあがった利益は、製薬会社が独占せずに、生物の提供国である南の国にも分けようというのが、生物多様性条約の目的の一つです。これにアメリカが納得せず、まだこの条約を承認していません。

生物多様性問題の背後にある、別の問題点も指摘しておきましょう。科学や技術は、今の世の中を作り上げるのに絶大な力をもっています。この科学や技術が前提としている思想に問題があると私は思うのですね。

科学は基本的に質を扱わないものです。量だけで考える。すると数式が使って、きわめて客観的にみえる学問になっていきます。理科系だけではありません。経済学もそうです。

すべてのものは同じ質であり、違いは多いか少ないかだけ。つまり価値を測るものさしは、ただ一本。すると、量の多い方がより豊かだ、より良いのだ、という価値観になりやすいのですね。だから、より幸せにと思えば、どんどん量を増やす。そして地球の資源や生物多様性を食いつぶすことによって量を増やしているのが現実です。量だけで価値判断するやり方を、このあたりで卒業しないと地球がもちません。これからの私たちの暮らしは、より量を減らす方向に向かわざるを得ません。

量を減らせば貧乏になってしまうと、どうしても私たちは考えがちで、だからこそ、これだけ環境問題・資源の枯渇が叫ばれても、量を減らせないので

す。でも、量の減少、即、貧乏とは、私は必ずしも思っていない。そう思う理由一。サンゴ礁は、熱帯の貧栄養の海、つまり貧乏な海を、多様な生物にあふれた豊かな海に変えています。サンゴと褐虫藻の共生と、その間の資源のリサイクルにより、乏しい環境でも、きわめて豊かに暮らせるようになっていくのがサンゴ礁。共生とリサイクルが貧しいものを豊かに変える手立てだというのは、きわめて示唆的です。

もう一つの理由。「量が多い＝豊か」という今の生活が続けられなくなっても、みじめと感じなくてもよい方法があるのです。量から質へ、豊かさのとらえ方を変えればいいのです。

多様だ、というのは質がいろいろあるということです。量はほどほどでいいから、質の違ったものがいろいろあることが豊かなのだと、豊かさの定義を変えればいい。生物多様性を大切にするとは、多様とは豊かなこと、だから大切にするのだという発想に基づいて、生物多様性も議論されるべきだと私は思っています。

(本川達雄『生物学的文明論』による。一部改変。)

【文章三】

森に住み、鳥や動物たちと日常的に接し、同じ場所で生活してきた人々には、本来鳥獣に対する「敵対心」はない。これまで長い間森の中で、人と鳥獣は共存することができたのである。現にカモシカがいても、林業に対する被害を与えていない地域だってある。また多少の被害であれば、それが「林業の宿命」であると「受忍」することだってできる。森に住む人々は、これまでそのようにしてきた。林業は、自然災害や火災、虫害等によって、常に「危険」にさらされていることぐらいは、森に住む人々は百も承知である。

それでもカモシカによる「食害」は「受忍限界」を超え、森に生きる人々の訴えは強い。この問題をめぐって、「自然保護」と「林業」が、相対立しているような局面を、私たちはしばしば経験する。

森に住み、林業に携わる人々が、今、カモシカをめぐる問題について訴えようとしていることは何であろうか。私がこれまで聞いてきたことをまとめれば、それは、次のようだ。

「これまで国は、森林、林業に対して、一体何をしてくれてきたか。特に山に住み、森の環境をつくり、守り続けてきた自分達に対して、何をしてくれてきたか。それでも自分達は、営々として森をつくってきた。厳しい自然環境、過酷な労働条件にも耐えて、社会の需めるものを提供しようとしてきた。それは、耐えることの連続であった。それなのにこの国の経済発展の恩恵を受けること少なく、そればかりか林業をやっていくことさえ困難な状況に追い込ま

れてきたではないか。今またカモシカにさえ、一方的に耐えよというのか。自分達の生活の見通しすらたてられない状態で、カモシカ生存の保証を自分達だけに一方的に押しつけるのか。何故自分達だけがいつも耐えなければならぬのか」

森に住む人々は、鳥もいれば動物もいる中で生活していききたいのである。しかし、生活への不安は、できるだけ取り除かねばならない。動物のために生活を放棄することを、誰も認めてはくれない。

犬嫌いの人はいても、犬を憎悪する人はいまい。しかし、犬が「お犬様」になったとき、人々は、犬を憎悪した。それは、犬に向けられたものではあっても、犬自体に向けられたものではなく、犬を「お犬様」にした理不尽さへの憎悪であった。

今、カモシカを「お犬様」になぞらえる森に住む人々の言葉に、私は抑圧され続けてきた人々の「嘆き」を聞く思いがする。

カモシカによる「食害」を林業を行う上で「避け難い」災害として認めつつも、なおかつできる限り被害を軽くする方策を社会全体としてつくり上げることを要求する、森に住む人々の「正しい」意見を、「お犬様」に向けて憎悪に変質させないために、私たちは考え、行動しなければならぬと思う。

「森の外」に住む人々は、これまでの森の産物——とりわけ自然的環境とか、風景とか、水とかの「公共財」で、直接貨幣価値で評価されていないものを——をどのような形で享受してきたであろうか。人々は森に接し、利用するに当たって、「森は無料」と思っていたのではなかったか。森に源を発する水についてもまた、同様ではなかったか。自然に恵まれたこの国の人々にとって、自然は何の苦もなく得られたものであったのであろう。自然をつくり、育て、維持している人々の存在を、一体どれだけの人が理解していたのであろうか。

都市で便利な生活を楽しみながら、山村に対しては、都市にもないものを求めようとする。それが、山村の「自主性」を尊重した上でなされるなら、とりたてて問題とはならない。しかしそのことを「社会的要請」という一種の暴力によって山村に押しつけるなら、たとえ「山村への理解」という装いをとっていたとしても、それは、都市の山村に対する優越という「信条体系」（一種の社会的な信仰ともいえる観念）を支える以外の意味は持ち得ない。

森に住む人々に、「森の外」の思考を強制してはならない。「森の外」からできることは、森に住む人々のつくったものに対する「正当な」評価である。それは、森の内と外との間に、対等の関係が成り立っていることを基盤にして、はじめて可能である。

ニホンカモシカの保存、森の環境の保全、水の確保といったことが、私たちの社会を成り立たせていく上で不可欠の「財物」であると考えらるなら、私たちの社会は、それらを持続して生産（保全）する主体、すなわち森に生きる人々の生活・生産の仕組みそのものをこそ、保ち続けなければならないのである。

（林蓮『森の心 森の智慧 置き忘れてきたもの』による。一部改変。）

問1 Mさんは授業で【文章Ⅰ】と【文章Ⅲ】を読んで、「生物の保全や保護」について自分の考えを整理するために、次のようなメモを作成した。後の問いに答えよ。

(1) 共通している要素 どちらも「生物の保全や保護」について論じている。



(2) 「生物の保全や保護」の捉え方の違い

【文章Ⅰ】生物の多様性の保全は、西洋近代の矛盾が に表れた困難な課題である。質を扱わず量で を捉える価値観から、 を多様性で捉える価値観へと転換すべきだ。

【文章Ⅲ】 に住む人々は、自然があるのは当たり前と思っている。そして、森に住む人々がそれを保護するのも当然だと思っている。しかし、 として一方的にカモシカを守りなさいと の思考を強制してはならない。 からできることは、森に住む人々のことを正しく することである。



(3) まとめ

(一) Mさんが作成したメモの空欄

A

E

に入れるのに最も適当な語句を、本文中から抜き出して書け。解答は記述式解答用紙。

(三) Mさんは(1)と(2)を踏まえ、「まとめ」を書いた。空欄 F に入る最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

解答はマーク式解答用紙

13

① 生物の多様性が、一人一人の生活にどのような関わっているのか実感することは、難しいかもしれない。しかし、森に生きる人たちは有益なものや有害なものや害なものを分けて接し、自分たちの生活を森の外の人との関係で考えるべきである。

② 生物の多様性が、一人一人の生活にどのように関わっているのか実感することは、難しいことではない。それゆえ、資源を使い尽くさぬよう配慮し、地球の生物多様性の保全に向けて、全ての人間は行動しなければならない。

③ 森は鳥や動物たちの生息地であると同時に、森に生きる人たちの生活、生産の場である。森や自然を豊かなままに維持していくためには、「森の外」に生きる人たちは、森に生きる人たちに改めて貨幣価値で評価すべきである。

④ 森は鳥や動物たちの生息地であると同時に、森に生きる人たちの生活、生産の場である。いずれか一方のことだけではなく、両者の立場を考えに入れ、生物多様性を保全するために何をしていけばよいのか考えていく必要がある。

問2 傍線部(ア)「今はいかがはせむ」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答はマーク式解答用紙 14。

- ① 今までどうやって会っていたのか
- ② 今となってはどうしようもない
- ③ 今から何とかして馳せ参じよう
- ④ 今の状況が本当かどうか疑わしい
- ⑤ 今がどのような状態かわからない

問3 傍線部(イ)、(ウ)の解釈として最も適当なものを、それぞれ①～⑤のうちから一つ選べ。解答はマーク式解答用紙、イⅡ 15、ウⅡ 16。

(イ)「ひととせ」

- ① 一日
- ② 一週間
- ③ 一か月
- ④ 一年
- ⑤ 一生

(ウ)「かまへて」

- ① 恐る恐る
- ② 率先して
- ③ 何とかして
- ④ やすやすと
- ⑤ 慌てずに

問4 傍線部(エ)「かへり給ふべきにあらず」のように述べる理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答はマーク式解答用紙 17。

- ① 彦星でもない男であれば、女のもとへ帰れないわけではないから。
- ② 彦星でもない男であれば、女に会わずに帰るはずがないから。
- ③ 彦星であれば、織女星のもとに帰ることはできないから。
- ④ 彦星であれば、織女星に会わずに帰るはずがないから。
- ⑤ 彦星であれば、織女星に会った後も帰りたくはないだろうから。

問5 空欄 A には同一の語が入る。その語を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答はマーク式解答用紙 18。

- ① かたがたに
- ② すべからく
- ③ すずろに
- ④ いたづらに
- ⑤ かたみに

問6 傍線部(オ)「わたしもりなどかいなび申さむ」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答はマーク式解答用紙 19。

- ① 顔見知りでない人に対しても、渡し守はいつも渡し舟を出すに違いないということ。
- ② 顔見知りでない人に対しては、渡し守はかならずしも渡し舟を出さないということ。
- ③ 彦星のような顔見知りの場合、渡し守はいつも渡し舟を出すに違いないということ。
- ④ 彦星が織女星に会いに行くときも、渡し守は絶対に渡し舟を出さないとということ。
- ⑤ 彦星が織女星に会いに行くときは、渡し守は渡し舟を出すに違いないということ。

**2023(令和5)年度 金沢学院大学・金沢学院短期大学
一般選抜 I 期 (2日目/2023年2月5日実施)
解答例【マーク式】**

国語 【国語総合】			
解答番号	正解	配点	
第1問	1	⑤	2
	2	④	2
	3	②	2
	4	⑤	4
	5	③	4
	6	④	5
	7	②	4
第2問	8	②	4
	9	③	4
	10	⑥	3
	11	①	3
	12	④	4
第3問	13	④	5

マーク	46
記述	54
計	100

国語 【国語総合+古文】			
解答番号	正解	配点	
第1問	1	⑤	2
	2	④	2
	3	②	2
	4	⑤	4
	5	③	4
	6	④	5
	7	②	4
第2問	8	②	4
	9	③	4
	10	⑥	3
	11	①	3
	12	④	4
第4問	13	④	3
	14	②	3
	15	④	2
	16	③	2
	17	④	4
	18	①	2
	19	⑤	4

マーク	61
記述	39
計	100

記述式解答用紙 「国語」

解答例

受験番号	
志望学科	
学科	専攻
専攻	氏名
専攻	

※専攻は「文学科」「教育学科」受験の場合に記入してください。

第1問

④	①
媒体	活躍
⑤	②
突飛	貢献
配点各	③
3	言及

問7

B		A
や	誰	人
べ	と	間
る	も	が
ー	し	顔
と	れ	を
い	な	出
う	い	し
	奴	て
	が	ー
	見	し
	え	や
	ない	べ
	いと	ー
	ころ	こ
	から	と
	ー	あ
	し	る

配点各 6

第2問

い	輝
る	く
と	よ
い	う
う	な
こ	青
と	空
	が
	パ
	リ
	の
	空
	一
	面
	に
	ひ
	ろ
	が
	っ
	て

配点 6

問6

大	他
切	者
に	と
す	親
る	身
	に
	触
	れ
	あ
	い
	、
	と
	も
	に
	過
	ご
	す
	時
	間
	を

配点 6

第3問

※文学科日本文学専攻・歴史学専攻受験者は、第4問(マーク式解答用紙)へ。

(一)

D	A
社会的要請	象徴的
E	B
評価	豊かさ
配点各 3	C
	森の外